

様式6

「学校」部門

河川基金助成事業

「地元岩本川の生き物とふれあう活動を通して学ぶ」 報告書

助成番号：2024-7211-006

愛知県豊田市平井小学校

校長 氏名 尾坂 宏樹

2024 年度

様式9

[学校部門 単学年]

[概要版報告書]

| 助成番号 | 助成事業名 | | 学校名 | | | |
|--|--|-------|----------------|------------------------------|------|------|
| 2024-7211-006 | 学校部門 (単学年) | | 豊田市立平井小学校 | | | |
| 所在地 | 愛知県豊田市百々町5-60 | | 対象河川名 | 岩本川 | | |
| 対象学年 | 4学年 (67人) | | 主たる教科 | 総合的な学習 | | |
| 河川教育の目標 | 当小学校区を流下する岩本川では、地域住民と行政（豊田市）が共同で自然再生等を行うふるさとの川づくり事業が行われている。川に近づけず草だらけだった岩本川は、階段の整備、定期的な草刈りや清掃、置石による自然再生等の川づくり活動により、子どもたちが比較的安全に遊べる、ほどよい川へと変化していった。そんな折に、川づくりを担う住民団体から打診があり、川を活用した授業を開始している。 | | | | | |
| 育成したい資質・能力 | 2017年度より小学生の川学習が始まった。2018年度からは、主に2年生で川の生き物とのふれあい活動から、地域の自然、川を活用した授業を進めている。当初は、川に「たこ」や「ひとで」がいると思っていた子どもがいるくらい川と海の違いも認識できずにいた。実際の川遊びを通して生き物とふれあい、流れる川の実感が体験できた。今年度は川幅や流れにも着目して調査を進めた。この学びは上学年理科での学習にもつながる。 | | | | | |
| 学習活動の内容と成果 | | | | | | |
| <p>前に以前の岩本川と現在の岩本川の水の流れが分かる写真を用意し、子どもたちが様々な視点で自分の意見をもち岩本川について仲間と話し合う活動を行った。新旧写真を提示することにより、岩本川の川の形が変化していることを視覚的に捉えることができた。また、川の流れの変化によってそこに住む生物にどのような影響を与えるかをGoPro等を用いて水中の川の流れを確認しながら考えることができた。授業を進める途中には、岩本川の保全活動を続けているボランティアの方や豊田市矢作川研究所の方の話の中から、<u>どのような意図で置石による川の環境整備を行ったかを知り、増水等により川の水の流れが変化することによって川岸を侵食していることや、川は生き物であり年月をかけて蛇行すること、昨年度の児童の環境整備が現在どのような状況であるかを理解した。</u>このように、総合的な学習の時間の調べ学習や地域ボランティアの方の話から岩本川に関する理解を深め、岩本川を守るための環境整備学習に生かすことができた。</p> <p>今後は、他の学年や地域・保護者に向けて総合的な学習の成果を発信していく。学年通信や学校通信、HPにも随時活動の掲載を行い、岩本川よさや自然環境を守ることの大切さを伝えるための情報発信に取り組みたい。</p> | | | | | | |
| 学びの創意工夫点 | 地域で活動しているボランティア創遊会の方々から直接話を聞くことにより、環境を守ることの難しさや苦労・喜びを知ることができた。また、矢作川研究所の方からも生き物の環境を守ることの大切さや、実際に川で生きている生き物を触ったり生態について教えていただいたりすることにより地域の川を守ろうとする意識を高めることができた。 | | | | | |
| 河川教育を通じて見られた子どもの変容 | ・川で遊ぶことは危険であるという保護者の認識もあり、地域の川ではあるが川の環境について知る機会がない児童が多い中、岩本川に生きる生き物の環境を考える授業を手掛かりに、自身の生活についてまで思いを馳せるよい機会となった。 | | | | | |
| 支援者等 (複数記入可) | | | | | | |
| 保護者 | 外部小学校 | 外部中学校 | 外部高校 | 外部大学 | 市民団体 | 専門家等 |
| 河川管理者 | 行政機関、博物館、資料館等 | | 関係団体 (漁協、農協) 等 | | 企業 | その他 |
| 支援の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・創遊会 (岩本川を守る会) ・豊田市矢作川研究所 | | | | | |
| 成果発表 | 成果作品 | | | 発表方法 | | |
| | | | | ・学習発表会にて保護者に環境整備の実際及び成果を伝えた。 | | |
| 今後の課題・展開 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・調査日のWBGTの数値が高く、実際に川での活動ができないことがあった。今年度のように活動に制限をとらざるを得ない状況が続くようであれば、時期の変更が必要になる。 ・今年度の取り組みを、次年度の該当学年の総合的な学習の時間や岩本川での体験活動に生かすことができるよう、引継ぎをしっかりと行いたい。 | | | | | | |

・キーワードとなる言葉にアンダーラインを引いて下さい。様式14-3

河川教育計画書【単学年】

| | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|---|-----|---|------|---------------|--|----|----|---|---|---|
| 1.助成事業名 | 学校部門 (単学年) | | 学校名 | 豊田市立平井小学校 | 助成番号 | 2024-7211-006 | | | | | | |
| 2.河川教育の目標 | 小学校区を流下する岩本川では、地域住民と行政（豊田市）が共同で自然再生等を行うふるさとの川づくり事業が行われている。川に近づけず草だらけだった岩本川は、階段の整備、定期的な草刈りや清掃、置石による自然再生等の川づくり活動により、子どもたちが比較的安全に遊べる、ほどよい川へと変化していった。川づくりを担う住民団体と協働で活動する中で地域の川を守ることの大切さを知り、川を活用した授業を展開する中で地域の環境が大好きな子どもを育てる。 | | | | | | | | | | | |
| 3.育成したい資質・能力 | <ul style="list-style-type: none"> 地域を流れる岩本川とのかかわりを通して生じた関心や疑問をもとに、地域の方々と課題を見つけ解決しようとする。 調査活動や川の環境を守る地域の方々から聞いた情報を整理し、実際の環境保全活動に生かす。 課題解決に向けて地域の方や仲間と協働で取り組む。 | | | | | | | | | | | |
| 4.学年／人数 | 4年／69人 | | | | | | | | | | | |
| 5.単元構想 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
| 単元目標 | <p>単元名：未来へつなげ 平井の宝～わくわく岩本川を守る隊～</p> <p>汚染の種類(大気汚染・海洋汚染・水質汚染)について知る。人の生活が原因となっている問題が多いことを知る。エコット(校外学習)や下水道出前授業により環境問題を解決しようとする人たちの思いについても理解する。</p> <p>関連教科:総合的な学習(10)、社会科(1)、国語科(1) 12時間</p> | | | <p>全国の川と岩本川の違いを知る。岩本川を整備している方にインタビューを行う。岩本川の調査活動を行う。みんなが遊ぶことのできる川にするためにできることを考える。</p> <p>関連教科:総合的な学習(15)、国語科(2) 17時間</p> | | | <p>岩本川環境整備隊、岩本川魅力発信隊での活動を行う。学級のみならず専門家の方にアドバイスをもらう。課題解決のためにそれぞれの隊での活動を行う。</p> <p>関連教科:総合的な学習(35)、国語科(2) 37時間</p> | | | | | |
| 主な学習活動 | <ul style="list-style-type: none"> 社会科の汚染の種類(大気汚染・海洋汚染・水質汚染)について知るとともにその原因について考える。 大気汚染・海洋汚染・水質汚染の原因には、ごみの不法投棄や生活排水、工業廃水があることを知る。 エコット(校外学習)や下水道出前授業により、ごみの分別や食べ残しや飲み残しを減らすことの必要性を学習する。 地域の自然を大切にしたり環境を守ることならばできることに気づく。 国語科の「確かめながら話を聞こう」「みんなで新聞を作ろう」を通して、課題の解決に必要な情報を集める手段を選択し、多様な方法を考える。 | | | <ul style="list-style-type: none"> 全国の水質汚染で困っている川と、岩本川を比較する中で、創遊会の方が環境を守っていることを知る。 創遊会の方へのインタビューを通して、なぜ地域の川を大切にしたいと考えているのかを知る。 岩本川の環境を保つために、地域の方がどのような努力をしているのかを知る。 岩本川のために自分にはどのようなことができるのかを考える。 | | | <ul style="list-style-type: none"> 仲間の意見や内容を知り、協力して取組を進める。 具体的な活動企画をイメージできるように専門の方からのアドバイスを受けるなどして再考する。 地域の方へ発信したり、実際に岩本川に出向いて活動を推進したりする。 | | | | | |
| 評価の観点 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な環境の中にも自然が汚染されている事実を知り、自分自身で環境保全のために何が必要かを考えることができる。 様々な環境問題に取り組む人たちの思いを知り、環境を守ろうという意識が高まる。 | | | <ul style="list-style-type: none"> 体験活動や岩本川を支える地域の方の願いを知り、地域の方が抱える課題を考えることができる。 体験活動と地域の方からの話を聞く中で、他の川と比較した時の岩本川の良さを理解できる。 課題の解決のための方法を、目的や状況に応じて実践することができる。 | | | <ul style="list-style-type: none"> 課題の解決に必要な情報を集める手段を選択し、多様に情報を収集することができる。 集めた情報を相手や目的に応じてまとめ方を選択し分かりやすく表現することができる。 岩本川や地域の方の願いを大切にしたいという思いをもち、学んだことをこれからの生活に生かそうとする。 | | | | | |

| 助成番号 | 助成事業名 | 学校名 |
|---------------|------------------------|-----------|
| 2024-7211-006 | 地元岩本川の生き物とふれあう活動を通して学ぶ | 豊田市立平井小学校 |

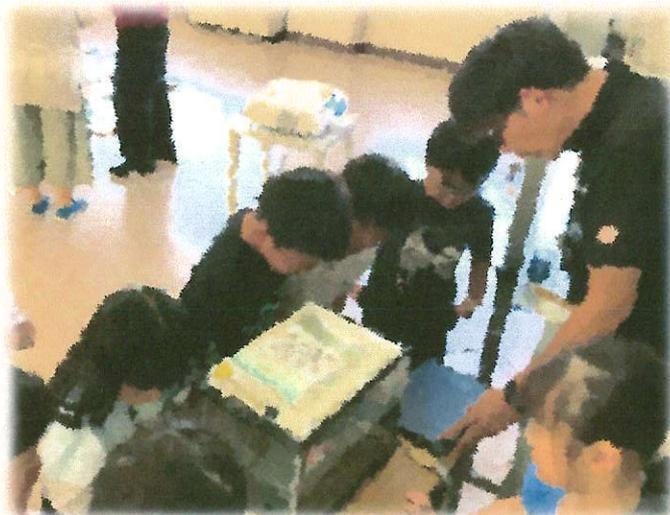


学年：4年生

学習活動名 岩本川について知ろう

見られた子どもの変容

川の形や水の流れを観察する中で「こんなところに空き缶がある」「草の間にお菓子の袋があったよ」など、一見気づきにくい場所に様々なごみが流れ着いていることに気づくことができた。また、ごみではないが「大きな木の枝が水の流れの邪魔をしている」「ここは土が崩れそうだよ」など、川の水のと川の流れを支える護岸の関係など多くの気づきを得ることができた。



学年：4年生

学習活動名：岩本川について知ろう

見られた子どもの変容

生き物を捕まえる際に、個々の児童にとって扱いやすい大きさの容器を用いて、班ごとに捕まえたニシシマドジョウやカワヨシノボリを一人一人の児童が実際に触るなどして観察した。最初は生き物を手で触ること躊躇していた児童も徐々に慣れ「カワヨシノボリにはひれがある」「このドジョウは大きいけれど、名前はなんていうの?」と矢作川研究所の方に聞きながら特徴的な口ひげに気づくことができた。また、容器に入れた際の水の透明度を見たり、友達が捕獲した生き物を容器の中に入れて観察したりすることができた。





学年：4年生

学習活動名：岩本川がどのように守られているかを知ろう
見られた子どもの変容

地元の岩本川を守る会である創遊会の小野内さんに、これまでに岩本川がどのように整備されてきたかについての話を聞いた。岩本川には昔は蛍が飛ぶほどきれいな川だったという話を聞き「どれくらいの数の蛍が飛んでいたのですか」などの質問をするなど岩本川について興味深く聞いていた。また、きれいな水質になるまでの苦労や、多くの魚が見られるようになった時の喜びを知ることができた。児童たちは、大雨による川の形の変化が生物にも影響を与えていることを知るとともに、「川は生き物である」という言葉に大きく影響を受けた様子であった。



学年：4年生

学習活動名：岩本川を守るために川の形を戻そう
見られた子どもの姿：

以前の川の写真と現在の川の写真を比較することにより、急な増水等により岩本川の川の流れが変化していることを知った。また、事前に整備された置石の周りの水の流れにも変化が起こり、川岸が侵食されている箇所を発見した。当日は、ボランティア代表の方や矢作川研究所の方と相談をしながら、川岸に影響が出ないように水の流れを変化させたり、生き物が住みやすい環境の整備を行ったりした。



注1) 子どもの変容が分かる写真を掲載し、その変容が見られた学習活動名、見られた子どもの姿（変容）を記載してください。その際、できる限り子どもが発した言葉などを拾い上げてください。

注2) 全ての活動について載せる必要はありません。

様式 15

[学校部門]

[実施箇所位置図]

| 助成番号 | 助成事業名 | 学校名 |
|---------------|----------------------------|-----------|
| 2024-7211-006 | 地元岩本川の生き物と ふれあう活動を通して学ぶ | 豊田市立平井小学校 |

主な実施箇所

※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。

※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。

(縮尺は 1/50

助成事業の主な実施箇所



万~1/100万程度)